

青少年育成 かすみがうら市民会議

vol.13

広報誌

青少年心身健全育成事業「ジュニア和太鼓教室」



ふれあい生涯学習フェア・かすみがうら祭にて発表



● 会長あいさつ ●

青少年育成かすみがうら市民会議 会長 酒井賢治



皆様方には、日頃から青少年育成かすみがうら市民会議の活動にご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

現在、青少年を取り巻く環境は大きく変化し、SNS を通じたトラブルの増加や闇バイト、詐欺犯罪の低年齢化が依然として深刻な課題となっており、これまで以上に青少年問題について考えていかなければなりません。

本市民会議では、青少年を犯罪や有害情報から守る取り組みを講ずるとともに、最大の目的でもある「次世代を担う青少年の健全育成」を達成するために、市民の皆様方と関係各種団体のご協力をいただきながら様々な活動を展開しております。

市民総ぐるみで青少年健全育成に取り組むため、皆様にご賛同いただきました会費は、青少年育成を考えるつどいを始め、ジュニア和太鼓教室（青少年心身健全育成事業）、かすみがうら市・ウィークエンド・コミュニティー・スクール事業、いばらきっ子郷土検定県大会、青少年相談員連絡協議会、高校生会、市内中学校及び義務教育学校立志行事などへの補助金交付、二十歳の集い（旧成人式）での記念品配付、広報事業などへ大切に活用させていただいております。

今後とも、市民の皆様方には「地域の親」「社会の目」として子どもたちを温かく見守っていただき、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



❖青少年育成かすみがうら市民会議とは

次世代を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな情操と広い視野を持った大人へと成長することは、市民すべての願いです。その願いの実現を目指し、地域環境整備や青少年への働きかけを行うことは、我々大人の責務であるといえます。

こうした責務を果たすべく、市民ぐるみの運動を展開し、次世代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に、「青少年育成かすみがうら市民会議（以下、市民会議）」が結成されています。

❖市民会議の事業とは

市民会議では、青少年の健全育成運動の総合的企画や関係機関・団体等との連絡調整をはじめ、青少年の健全育成を推進するために各種事業の実施や関係団体の支援、青少年育成に対する関心と理解を深めるための広報・啓発活動を実施しています。

❖市民会議の活動費

市民会議は、その活動にご賛同いただいた皆様からの会費によって運営されています。

会費は、青少年健全育成を目的とした事業の展開や学校・関係団体への支援に対する貴重な財源として活用させていただいております。

❖今年度(令和6年度)の事業

青少年育成を考えるつどい

青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）

青少年健全育成に関する広報活動

かすみがうら市・ウィークエンド・コミュニティー・スクール（KWCS）事業

親子つり大会・市子ども会育成連合会事業への協賛

二十歳の集い(旧成人式)での記念品配付及び式典準備費への助成

いばらきっ子郷土検定県大会への助成

青少年相談員連絡協議会の巡回指導等の活動への助成

市リーダース高校生会への助成

中学校及び義務教育学校立志行事への助成

❖会員募集について

本会では、毎年会員を募集しております。本会にご賛同してくださる方には、会費を納入いただいております。**【会費】** 一般会員：年額 200 円、賛助会員：年額 1 口 1,000 円（1 口以上）
会費の納入につきましては、毎年 6 月頃に区長・自治会長・常会長・班長の皆様を通してお願いしております。

会員加入にご協力をお願いします。

..... ～推進している運動をご紹介します～

「あいさつ・声かけ運動」

まず、大人から子どもにあいさつ・声かけを始めてみましょう！

「あいさつ・声かけ運動」は、家庭、学校、地域で、大人と子ども・大人同士・子ども同士のコミュニケーションを広げる運動です。

青少年が、将来への夢や希望をもっていきいきと成長していくためには、地域社会の大人たちが、学校や家庭と連携を図りながら支援していく必要があります。

「親が変われば、子どもも変わる運動」

いつの時代にも、次代を担う青少年を健全に育てていくことは親や大人の使命です。

私たち親や大人は、青少年問題の背景には親や大人の生き方や社会のあり方が深く関わっていることを自覚して自らの生き方を見直し、姿勢を正していかなければなりません。

青少年の人格形成には、日常生活における親の子どもへの関わりが大きく影響します。親が、子どもたちのよい手本となるよう親自身が変わっていく必要があるため、大人のマナーアップ運動としても実施しています。



令和6年度

「青少年育成を考えるつどい」

令和6年7月13日(土)霞ヶ浦コミュニティセンター視聴覚室で、青少年健全育成に対する理解と関心を深めることを目的とした『青少年育成を考えるつどい』を市PTA連絡協議会との共催で実施しました。

第一部 少年の主張大会

第一部の「少年の主張大会」では、市内各中学校・義務教育学校の代表者6名が、日頃の生活の中で感じたことや考えていることを発表しました。

それぞれの主張文をご紹介します。

タイトル	学校名	名 前
自分を思うこと	下 稲 吉 中 学 校	塚 本 心 愛
変わらない景色	霞 ヶ 浦 中 学 校	坂 本 愛 佳
私の三年間	千代田義務教育学校	比 家 一 華
たった一言で変わった関係	下 稲 吉 中 学 校	弥 陀 杏 珠
みなが平等に	霞 ヶ 浦 中 学 校	佐 野 蒼 維
助け合うことの大切さとは	千代田義務教育学校	鈴 木 佑 奈

(敬称略)

※令和4年度より、小中一貫教育の実施に伴い市内中学校は学年表記が7～9年生になっています。

自分を思うこと



下稲吉中学校8年
塚本 心愛

何か嫌なことがあれば、「自分なんて…」や「もうどうでもいいや。」と自分への扱いが雑になってしまっていないですか？ 少なくとも私はそんな人です。いえ、そんな人でした。そんな私がなぜ変わったのか。それは、一人の小さな女の子に出会ったからです。

今年の4月、塚本家に一人の女の子が誕生しました。部活終わりで家にいた私は、これから共に生活していく妹が生まれたという実感があまりありませんでした。それでも、大きな喜びと両親への感謝で胸がいっぱいになりました。妹に今すぐ会いたかったのですが、会えたのは約一週間後のことでした。

学校から帰ると、母が小さな女の子を抱いて「おかえり。」と出迎えてくれました。初めて妹に会った瞬間。感動しているような、驚いているような、なんとも言えない気持ちでした。安定していない首、小さな手足、私の体重の10何分の1ほどの軽い体。抱き上げると、小さいけれど尊い一つの命の重みを感じました。それと同時に、「私もこんなに小さかったんだ。」と全く記憶にない新生児の頃を想像してみたのを覚えています。

ずっと楽しみにしていた妹との生活が始まりました。生後から間もない頃は、寝ているか泣いているかで、目を見て笑い、話すというようなことはまだできませんでした。そのため、彼女が何を必要としているか考えることがとても大変でした。あれも違う、これも違うとするうちに、理解できない悲しみに溺れてしまいそうでした。それでも、たくさんの時間をかけて考えることができたのは、彼女に限りない未来と夢が広がっていると思えたからでしょう。妹が寝た後、私と弟は決まって未来について話していました。

「この子がやりたいって言ったことを、やらせてあ

げたいね。」

「部活動は、何をしたいって言うかな。」

「何が好きで、何が苦手になるんだろう。」

そう考える時間がとても楽しくて、喧嘩だらけだった私たちの会話がはずみました。

妹が生後2ヶ月を過ぎた今、私はとても幸せな日々を送っています。きっと私以外の家族もそうでしょう。学校や仕事で疲れた私たちを、満面の笑みで癒してくれるのです。この笑顔に、私の身の周りの人たちもファンになりました。彼女の笑顔を見て喜び顔をこぼす人、誕生を祝ってくれた人。みんな彼女のことが好きなのでしょう。

私は、そんな妹や周りの人たちを見て、自分にも丁寧に接しようと思えました。自分では分からないけれど、生まれた時に喜んで、祝ってくれた人がいるかもしれない。私の未来を想像してわくわくしてくれた人がいるかもしれない。私を見て笑顔になってくれた人がいるかもしれない。少し自意識過剰かもしれませんが、妹を見ていたら自分の存在の大切さに気付くことができたのです。子育ては大変です。小さなことでも、何かあれば消えてしまう命。それを一生懸命守ってくれて、分からないことが多いけれど育ててくれたお父さんお母さん。私が13年間も生きていられているのは、当たり前ではないと実感しました。

はじめに言ったように、自分のことが嫌になってしまうことは誰にでもあると思います。しかし、そこで自分を全否定しないで生きましょう。「そういう時もある。」と一旦受け止めて心に閉まっておくのも良いかもしれません。今、私がいること、貴方がいること、それは当たり前のことではなく、支えてくれた人や環境のおかげだということを忘れないでほしいのです。きっと貴方の存在のおかげで、笑顔になれた人がいます。そうして大切にされてきた自分を、自分でも大切に日々過ごして、人生を生きてほしいです。

変わらない景色



霞ヶ浦中学校9年
坂本 愛佳

「きれいだねえ。」夕方、一緒に犬の散歩をするおじいちゃんに言った。「うん。きれいだねえ。」おじいちゃんも田んぼの広がる景色を眺めて言った。私は、田んぼや畑、さらに家の近くには湖があり、たくさんの自然に囲まれながら過ごしてきた。私はこの田んぼの景色も鳥の囀りもリラックス

できる自然のにおいも大好きだ。

小学生の頃、田んぼでおたまじゃくしを探しているとおじいちゃんは言った。「じいが小さいときはメダカが泳いでいたんだよ。」と。私はびっくりした。だって今は田んぼにメダカは一匹もおらず、メダカが見たいと言ったらお店に行かなければメダカを見ることができないのだから。当時の私は、「え！ いいなあ。なんで今はメダカがいないの?」とおじいちゃんに聞いた。「それはね、メダカにとって安心できる場所がなくなっちゃったからだよ。」とおじいちゃんは教えてくれた。さらに、湖沿いをランニングしているとき「え、なんか臭い。」と私は走りながら言った。「臭いね。湖の匂いだね。じいが小さいときはとってもきれいで友達と泳いで遊んでいたんだけどなあ。」と湖を見ながらおじいちゃんはどこか寂しいような目をして言った。

私は、メダカにとって安心できる場所がなくなってしまった理由と湖からの悪臭、そしてなぜあんなにも水の色が汚くなってしまったのかが気になり、インターネットで調べてみることにした。すると、メダカが田んぼからほぼいなくなった要因については次のようなことが分かった。昔と今とでは、稲の栽培方法や田んぼのつくりが変わってしまったということだった。例えば、メダカはもともと用水路と田んぼを行き来して暮らす魚だった。そのため、用水路がないと生活することが困難になってしまう。しかし、最近の田んぼには、用水路がないところがあり、田んぼと用水路を行き来していたメダカは暮らすことができなくなる。そのため、メダカは環境省の絶滅危惧種に指定されるほど数が減ってしまったという。さらに、湖の汚染の原因について調べた。湖が汚されている原因は、周辺地域の工業化や生活様式の変化などということが分かった。例えば、家庭や工場、田んぼや畑などあらゆる場所からの影響で湖の水質汚染が悪化している。私は、このようなことはすべて人間が引き起こしているものと思った。

私は、この二つの出来事から、毎日のように見ている田んぼの景色も人間の行為によってなくなり、生態系が壊れていくことがすごく怖く感じた。大げさのように感じるけど本当に起こり得ることだと私は思った。そのよ

うなことが絶対に起きないように、自分の家の田んぼだけでも用水路をつけたり、農薬を使いすぎないようにしたり、湖や側溝にごみを捨てないようにしたり、下水道などへの接続をしたりと自分ができることはたくさんある。自然環境の課題は世界の課題でもあり、日本の課題でもあり、そして人間一人一人の課題でもある。私たちだけが住みよい社会にするのではなく、メダカも水の中にいるプランクトンも生態系みんなの居場所がある社会になってほしい。一人一人がこの課題について考え、自分の地域を守ろうとすることで今までの生活がもっと豊かになると思うから。

これから先もこの景色を見て、「きれいだねえ。」って言えますように。

私の三年間



千代田義務教育学校9年
比家 一華

私は、中学生になり入りたいと思っていたバレーボール部に入りました。バレーボール部に入ったのは私一人だけで、すごく不安でした。しかし先輩方が優しくしてくださったり、色々なことを教えてくださったりしたので部活動が楽しみでした。暑い中行う夏休みの部活は、本当に苦しくて大

変な活動でした。そのような中ですが、先輩方の懸命な姿を見て私も負けていられないと思い努力することができました。大会や練習などを通して先輩方との絆が深まっていき、先輩方と一緒に出場する最後の大会は絶対に勝ちたいという、気持ちがどんどん強くなりました。しかし、私は大会前日の練習中に怪我をしてしまい、最後の大会に出場できなくなりました。まさか、こんなことが自分に起こると思っていたのですごく悔しかったですし、すごく悲しかったです。そこで、私はその悔しさをバネに自分の最後の大会の時は、絶対に目標を達成するという気持ちが強くなりました。

一方で、バレーボール部は人数が少なく、チームを作ることが出来ません。私は不安が強くなりもう大会に出場することが出来ないのかなどさまざまなことを考えました。そこで、先生方がたくさん考えてくださり、私達は、園部中学校と合同チームを作ることができたり、6年生に手伝ってもらったりすることになりました。新チームを組む喜びや仲良くなれるかの思いなど複雑な気持ちがあったのですが私は、とにかく頑張りました。試合に復帰出来たのは9月頃で、新チームで戦う初めての大きい大会で緊張しました。新チーム皆に追いつけるよう一生懸命夢中で頑張りました。大会が終わりさらに厳しい練習が始まりました。3ヶ

月程部活を休んでいた為上手くバレーボールをすることが出来なくなりだんだんプレーに対しご指導をいただく事も増えました。練習試合を行っても皆の足を引っ張ってしまい最初に思っていた頑張ろうという気持ちが減っていきませんでした。練習をしていても、もう辞めたいなどマイナスな気持ちがどんどん出てきました。それでも、諦めずに最後まで頑張りました。冬休みに入り、合宿がありました。やはり、行きたくないなと思ってしまい自分がいました。やはり、練習が辛くて本当に大変な思いでした。夜は皆と話をしたり仲間も深まり今考えるとすごくいい合宿だったなと思いました。

2月に入って、練習も練習試合でも仲間や先生と課題を多く話す事がまた増えました。私や仲間もマイナスな考えが多く出ていました。部員だった後輩が辞めてしまいこれからどうするかなど不安な気持ちがありましたが、後輩の為に頑張ろうと思う気持ちがより強くなりました。

3月の大会では、サポートをいただき試合に出ました。前よりも体が上手く動くようになりました。先生に「上手くレシーブ出来てるね。」とほめられた時は、すごく嬉しかったです。また、もっと頑張ろうという気持ちも少しずつ強くなりました。

3月から5月まではあつという間でした。この数ヶ月はすごく大切な3ヶ月でした。自分のポジションが変化して、5人体制になりました。練習試合でも上手くまわるようになりました。

部活動の3年間、私は人との関わりや、最後まで諦めないことの大切さが部活を通して気づけました。最後の大会まで一週間なので目標を達成できるようにがんばります。また、3年間支えてくれて、いつも応援してくれた父に感謝して試合に取り組みたいです。

たった一言で変わった関係



下稲吉中学校8年
弥陀 杏珠

みなさんはこれまで、友達のことで落ち込んだり、悩んだりしたことはありませんか。この質問で「ない。」と言い切れる人は少ないのではないのでしょうか。私もみなさんと同じで、友達のことでたくさん悩み、落ち込むことがあります。だからこそ、私の言葉で伝えたいことがあるので聞いて下さい。

最初に伝えたいことは、友達との距離感についてです。私は今、たくさんの友達がいます。みんなと仲良く過ごし、明るく前向きに学校生活を送っています。しかし、うまくいくことばかりではありません。そのようなときに大抵は友達との距離感がうまく取れてい

ないのだと考えています。実は、私は昔から一人の人とだけ仲良くしすぎてしまうことがよくありました。そのため、特定の人に深く関わり過ぎてしまうからこそ、その人が自分の考えていた行動と違うことをすると、なぜそんなことをしたのか理解ができず、とても傷ついてしまうことがありました。自分と全てが合っているわけでもないし、すれ違うことも多く、学校を休む時もありました。そんなとき担任の先生から、「友達はひとりじゃないよ。」と言う言葉をかけてもらえました。私ははっとしました。一人の友達としか深い関係を築こうとしていなかったからです。友達はひとりじゃない。周りを見れば私に優しく声をかけてくれる友達がたくさんいる。先生から頂いた言葉で多くの友達の大切さを感じ、人と関わるうえで大切なことを考えるようになりました。そして、不思議なことに沢山の友達と関わるようになってから、ギクシャクした友達ともうまくいくようになったのです。きっと、お互いの距離感がうまくいくようになったのだと思います。

次に伝えたいことは、受け止め合うことと思いやることです。私はハンドボール部に所属しています。試合中や練習中、相手の意見を受け止めることができているとよくいえないことが多いです。自分と考え方も違うし、すれ違ってしまうのは仕方ないことだと思いますが、全員が一度受け止めてから意見を言うことでみんながいい気持ちでプレーできると思います。また、受け止めるだけでなく、相手を思いやる伝え方も考えていかないといけません。私のチームは流れが悪くなると、ミスが多くなります。すると、だんだんと相手を思いやる気持ちを忘れ、チームメイトに強い言葉をかけてしまうことがあります。しかし、伝え方次第で雰囲気も変わり、全員で楽しんで試合に勝つことができると私は考えました。

私には学校で仲良くなった友達、習い事で仲良くなった友達などたくさんの友達がいます。今までは一人の人にしか話せないこと、この人にしか話せないなど一人の人にこだわりすぎてました。でも違う友達と話してみると考え方が違ったり、捉え方も違ったりするからこそたくさんの気づきを得られるのだと気付くことができました。決して一人の人と仲良くなる考えを否定しているわけではありません。ただ、距離感を大切にしてほしいのです。お互いを受け止め合い、お互いを成長させていくのが本当の友達だと思います。いつでも相手を思う気持ちを忘れず、悪いことと良いことの判断を自分でできるようにすることも人と関わることで必要だと私は考えます。

このようなことを意識することで友達との関係がとても良くなりました。でも人との関わり方には正解はありません。親に相談したり、先生に相談した時にかけてくれた言葉にとっても救われます。自分も成長しながら、もし自分と同じ悩みを抱えている人がいたときには助けてあげられるような人になれたらいいなと思っています。

みなが平等に



霞ヶ浦中学校9年
佐野 蒼維

「118位」これはなんの順位かわかりますか。これは2024年の今年発表された、146か国を対象とした男女平等ランキングの日本の順位です。

この順位を知っても、良くない順位だという事しかわかりませんでした。ですが、先進国と呼ばれている国で最下位ということを知

りとても驚きました。

戦争を経験し、少しずつ男女平等への道を歩んできた日本です。戦前からしたら、想像もつかないような変化をしてきていることでしょう。私が本やテレビで見たり、学校の授業を受けたりして今まで学んできた昔の日本は、信じられないような差別がありました。そして、それを常識とする人々の時代となってきました。

男尊女卑「男性を優先し、女性を軽視する」令和の時代では聞く事もなくなった言葉です。

なぜ聞く事がなくなったのか。それは、今でも昔でも変わらず、どんな時代にも国に抵抗し、声をあげて、変化を求め続けてきた、自分の考えをきちんと持つ人達がいたという事なのだと思います。

男性優先にとってもつらい思いをしてきた女性、それをおかしいと気づき、女性にも同じ権利があるべきだと思った男性。どちらもあつての進歩だったのだと思います。

戦争が終わり、20年後には先進国となった日本の成長スピードは他国からみてもすごいと感じるものだと思います。

そこまでのスピードで成長をした日本は、なぜ今、そこまで低い順位になっているのでしょうか。

変化をおこす事はとても大変な事でしょう。私も、今の自分のよくない所、変えた方がよいと言われた事を素直に認め、考え、そして、変化に向けて努力する。とても苦手な事です。

今まで信じていた常識がもしかしたら常識でないと疑う事が必要であり、立ち止まって考える時も必要です。

私が幼い頃からしてきたスポーツでもたくさんのジェンダー問題があります。まず、サッカーでは、男性W杯と女性W杯では、優勝賞金の差が13倍もあるとされていたり、「FIFA」では、未だに女性チームに対して、同じ成績の男子チームの4分の1しか賞金を提供しません。

前進はあるものの、未だにサッカーの各カテゴリーにおける女性選手の収入は男性選手より少なく、練習環境にも恵まれず、複数の仕事を掛け持ちし、国際大

会に出場するために無給の休暇を取らざるをえない場合もあります。

スポーツの中でもアップデートされていると思っていたサッカーですら、まだこのような問題があります。優先されている男性側の私がおかしい、改善すべきと考える事が今、身近な事としてできる事です。

ですが、考え方によっては、問題だと思ってとりあげられることはまだよい方で、問題ともしりあげられない差別がたくさんあると思います。

少し立ち止まってしまっていた時、歩みがゆっくりになってしまった時も、考えて、声をあげ、変化を求めていく事を、これからの時代を担う、私達は続けていくべきだと思います。

お互いを思いやり、おきてしまった差別もあるかもしれません。区別や相手を守る為のルール。それがつくられた背景も想像し、そこからまた、新しい考えをとり入れる、アップデートは特別な事ではなく、あたりまえなこと。私は、そのようなことができる世界で暮らしていきたいです。そして、その世界の一員である自覚をもって暮らしていきたいです。

助け合うことの大切さとは



千代田義務教育学校9年
鈴木 佑奈

皆さんは誰かが困っている時にどうしますか。また、災害が起きた時どのような行動をしますか。私は今まで経験をしたことをもとに考えていきたいと思います。

一つ目は、3月11日に起きた東日本大震災です。私は当時1歳ぐらいで、全く記憶がありませんでした

が母に聞いたところ、私と私の兄がまだ小さかったので「おんぶをして手を引いて外に逃げるのが怖くて不安だった。地面も揺れてて歩けなかったし停電もして大変だった。」と言っていました。母が怖かったのに必死に守ってくれたからこそ今の笑顔があると思います。そしてこの東日本大震災は日本で起きたにも関わらず、国外からもたくさんの支援がありました。126カ国の国からの物資や支援金、メッセージなどで助けてもらいました。私は初めは支援金での支援がほとんどだと思っていましたが、支援金だけではなく食料品、水、防寒具や手袋、毛布、おもちゃ、寝袋やベッド、簡易トイレ、衛生品、放射線防護服など生活に困らないためにたくさんの物資を支援してもらいました。外国からの寄付金だけで175億円以上が集まるほどでした。また、アメリカから「トモダチ作戦」として救助隊がきてくれたり、特例として日本の医師免許を持っていない外国人医師たちによる治療活動も進みまし

た。そこまでして日本の人々を助けようとしてくれていることに感動しました。

東日本大震災だけでなく、1月1日に起きた能登半島地震でもたくさんの助け合いがありました。私の住むかすみがうら市は地震があったのか分からないぐらいあまり揺れていませんでした。外の地震アラートが鳴っていてテレビをつけてみたら想像よりも遥かに大きな地震が起きていて、画面越しでもとても怖かったです。そして、私の兄は市の職員として勤務していて、2月に災害支援の一員として石川県輪島市に支援に行くことになりました。私は、兄の言葉を聞くまではなぜ茨城県は全然関係もないのに、石川県から遠く離れているのに今、危ない場所に行かなければならないだろうと思っていました。その兄が言った言葉は「東日本大震災の時に石川県の人にも助けてもらったからその恩返しとして今は助けに行かないといけない」と言っていました。確かに、助けていただいた恩は返さないとダメだなと強く感じました。石川県はたくさんの家が倒壊していたりして見たことのない景色だったそうです。そんな中私の兄が行った支援は断水の影響で水が使えない現地の人に水を配ることをしていました。色々な地域に水を配りに行ったそうです。石川県には

他の県からも支援に来ている人がたくさんいたそうです。行った感想は「誰かの役に立つことができたので支援に行ってよかった」と言っていました。支援する方法はたくさんあります。直接支援に行けなくても、スーパーなどにある募金や石川県の物を買ってその売り上げが寄付に繋がるものもあります。

このように、たくさんの人の力や想いが集まれば命を救え、また希望を持つことができます。ですので、距離が遠くても自分には関係なくても同じ人間として、同じ地球に住んでいる人として国内だけでなく外国の人でも手を取り合い、助け合うことが大切だと思います。もし、また日本や他の国でそのようなことがあった時は進んで募金活動に協力したり、少ない金額だとしても力にはなれるし、どんなに小さいことでも気持ちを込めて行えばきっと想いは伝わります。明るくて素敵な未来を作るためにも、人同士が助け合っていき常に感謝の気持ちを忘れないということも大切だと思います。私も、簡単なことではないけれど、将来人のために行動できる人になりたいです。また、この作文を通して一人でも多くの人が「助け合う」ことの大切さについて知ってもらいたいと思いました。

青少年育成を考えるつどい

第二部 講演会

『みんなでつくる子どもと地域の未来 ～コミュニティスクールの活用を通して～』



講師：文部科学省総合教育政策局

CSマイスター

安齋 宏之 先生

「少年の主張茨城県大会主張文を募集しました」

公益社団法人茨城県青少年育成協会及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催による「令和6年度少年の主張文募集」に、市内の中学校・義務教育学校から推薦のあった6名の主張文を提出いたしました。



研修会等へ参加しました

○土浦地区青少年育成市民会議連絡会 研修集会

令和6年12月2日(月) つくば市役所
・事例発表 ・「石岡タロー」上映会

○青少年健全育成茨城県推進大会

令和7年2月26日(水) アダストリアみとアリーナ
講演:「1万人の犯罪者分析から学ぶ攻める防犯という考え方
～良かれと思つての落とし穴～」
講師:東京未来大学 副学長 出口 保行 氏

(公社)茨城県青少年育成協会は、「家庭の日」普及運動の一環として、毎年「家庭の日」絵画・ポスターを募集しています。今年度は中学生の部 375 作品の応募の中から霞ヶ浦中学校7年 宇都木咲来さんの作品が最優秀作品として受賞されました。



かすみがうら市 青少年相談員連絡協議会

青少年を取り巻く社会環境を健全化し、青少年の健全育成と非行防止に資することを目的として様々な活動を行っています。



①巡回活動

徒歩や青色防犯パトロール車で、毎月2回程度、市内の施設や店舗を中心に巡回しています。市内の公園や神立駅周辺の防犯パトロールも行っています。

②あいさつ・声かけ運動

生徒が登校する時間にあわせ、市内の中学校・義務教育学校であいさつと声かけを実施しています。

③啓発活動

神立駅での非行防止キャンペーンや市内のイベントにて、多くの方に青少年健全育成への理解を語りかける活動をしています。

④店舗への訪問活動

コンビニエンスストアなどの商業施設を訪問し、「青少年健全育成に協力する店」として良好な環境づくりへの協力をお願いしました。なお、市内では現在37店舗にご協力いただいております。

⑤視察研修会

青少年相談員としての更なる資質の向上を目指して、令和7年3月10日(月)に埼玉県にあるさいたま少年鑑別所を訪問し、施設内の見学に加え地域における非行・犯罪の防止に関する活動や青少年の健全育成に関する活動の支援等を説明していただきました。貴重なお話を聞くことができ、今後の活動の参考にすることができました。

⑥県青少年相談員連絡協議会第5ブロック研修会

土浦市・石岡市・つくば市・かすみがうら市の青少年相談員相互の連携を深め、広域的な青少年問題に対応できる体制づくりのため、研修会が実施されています。



あいさつ・声かけ運動



非行防止キャンペーン



かすみがうら祭・啓発活動



青少年心身健全育成事業 ジュニア和太鼓教室

市内の小中学校及び義務教育学校の3年生から9年生を対象に、市の体育センターで和太鼓教室を開催しました。22名の参加者が、あゆみ太鼓の方々の指導のもとバチの持ち方や構え方などの基本的な練習から始め、6回の教室で「じとう太鼓」という曲が演奏できるようになりました。

演奏に加え振り付けもあり、初めは悪戦苦闘していた児童も、毎週練習を重ねて上手に演奏できるようになりました。また、ふれあい生涯学習フェア・かすみがうら祭に参加し、多くの人々に子供達の素晴らしい演奏を見ていただくことが出来ました。



ジュニア和太鼓教室の練習風景

市子ども会育成連合会事業 親子釣り大会



令和6年5月18日(土)、上佐谷地区の雪入川にて「親子釣り大会」が行われました。67組202名の参加者が早朝からニジマス釣りに奮闘し、ニジマスが釣れると大きな歓声を上げていました。天候にも恵まれ、家族の笑顔あふれる和やかな1日となりました。

今年度も当事業に青少年育成かすみがうら市民会議から経費の一部を助成しています。



高校生会の活動

今年度の高校生会は28名となり、定例会のほかに、学習支援ボランティアのお手伝いや市子ども会のイベント協力、霞ヶ浦コミュニティセンターホールのクリスマスツリー装飾など、様々なイベントに参加し活動してきました。

「できることを、できる時に、できる人が」をモットーに、今の自分たちにできる活動を積み重ねています。

新たな高校生会員も随時募集しています。ご興味のある方は生涯学習課までお問合せください。



二十歳の集い事業 (旧成人式)

令和7年1月12日(日)下稲吉中学校屋内運動場(新体育館)にて、令和7年かすみがうら市二十歳の集いが行われました。313名が出席し、懐かしい友との再会を喜び、新たな人生の一步を踏み出しました。

二十歳の集い事業には青少年育成かすみがうら市民会議も協賛し、参加者に記念品を贈りました。



KwCS

かすみがうら市 ウィークエンド・コミュニティ・スクール 事業

市内に住む児童・生徒を対象に、心豊かな人間性と郷土を愛する心を育むことを目的に、学校や家庭などの日常生活では経験できないような体験学習を関係機関、団体、組織が一体となって事業を実施しています。

今年度は親子釣り大会、富士見塚古墳フェスタ、かすみっ子まつり（ごじゃっぺかるた大会・工作）、親子で山ビンゴ等の事業補助を実施しました。

FISHING



「親子釣り大会」

「かすみっ子まつり」
クリスタルランプ工作



「かすみっ子まつり」
ごじゃっぺかるた大会

ENJOY!



富士見塚古墳
フェスタ



青少年育成かすみがうら市民会議

事務局 かすみがうら市教育委員会事務局生涯学習課
〒300-0134 茨城県かすみがうら市深谷3719-1
TEL.029-897-0564 FAX.029-898-2965

発行日:令和7年3月21日